雪氷写真館㊺　南パタゴニア氷原の氷河 / Glaciers in the Southern Patagonia Icefield

写真 1　ペリートモレノ氷河の末端域

写真 2　アメギノ氷河の中流部

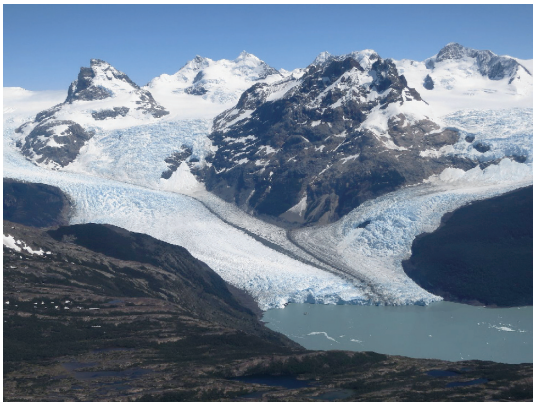

写真 3　スペガッツィーニ氷河（末端幅 1.3 km）

写真 4　ウプサラ氷河（末端幅 3.0 km）

写真 5　氷原の涵養域を挟んで望むチリ側の山

写真 6　ヴィエドマ氷河の消耗域

写真 7　使用したヘリコプター Robinson R44 型．パイロットの Pablo Argiz（左）と共同研究者 Pedro Skvarca.

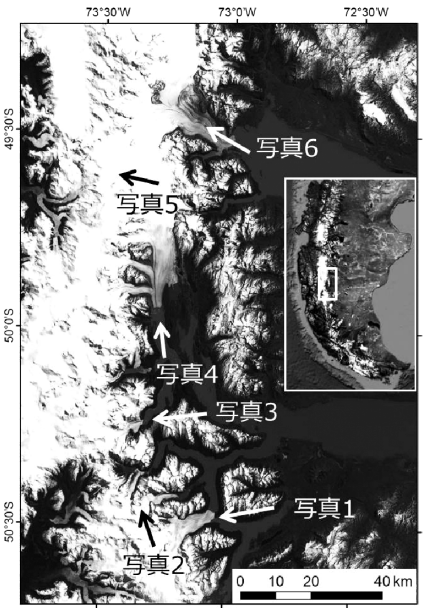

図 1　南パタゴニア氷原の Landsat 画像上に撮影地点を示す．

南パタゴニア氷原の氷河

アルゼンチンとチリの国境に位置する南パタゴニア氷原は，南北 400 km に伸びる氷河群である．海や湖に流入するカービング氷河が数多く存在し，そのほとんどが後退傾向にある．南パタゴニア氷原におけるカービング氷河の変動を明らかにするため，2012 年 12 月から 2013 年 1 月に野外観測を実施した．本稿では，観測期間中に実施したヘリコプターによるフライトで撮影した氷河の写真を紹介する．

常に天候が悪いと言われるパタゴニアだが，フライト予定の 12 月 26 日は絶好のコンディションとなった．氷原の東側に位置するペリートモレノ氷河からスタートして北上，ウプサラ氷河を経てヴィエドマ氷河まで，翌年に予定している熱水掘削の適地を見つけることがフライトの目的である．上空から見るペリートモレノ氷河の末端部は深いクレバスに覆われて，その流動の激しさがうかがえる（写真 1）．ペリートモレノ氷河に沿って氷原の中流域に入ると，鋭い岩峰，急斜面を下る氷河，複雑な地形に形成された湖など，無秩序で混沌とした光景が目に飛び込んできた（写真 2）．氷原の東側では，美しいカービング氷河，スペガッツィーニ氷河がアルヘンティーノ湖に流れ込んでいる（写真 3）．さらに北上してウプサラ氷河へ（写真 4）．この氷河は過去 30 年で末端部 7 km の氷を失っており，パタゴニアで最も後退の激しい氷河のひとつである．ウプサラ氷河に沿って標高を上げると，やがて真っ白な涵養域が見えてきた．氷原という名がふさわしい平坦な雪面が広がり，氷原の西にあたるチリ側から雲が湧きあがっている（写真 5）．フライトの最後は，南氷原で 2 番目に大きなヴィエドマ氷河を下る．中央モレーンと火山灰が織りなす文様が印象的であった（写真 6）．

フライトに協力を得たパイロット Pablo Argiz に感謝する．本観測は JSPS 科研費 23403006 の助成を受けて実施した．

杉山　慎・澤柿教伸・榊原大貴・箕輪昌紘・武藤みなみ（北海道大学）
内藤　望（広島工業大学）・Pedro Skvarca（アルゼンチン南極研究所）